

菩嶺祭

6月23日・24日に開催された菩嶺祭。生徒会長の露木君と学園祭実行委員長の加賀見君に学園祭を振り返ってもらいました。



生徒会長 | 露木 野亜

Q-高校生活最後の学園祭でしたが、どのような学園祭にしようと思っていましたか？
生徒全員の思い出に残るような学園祭にしよう、準備・運営にあたりました。特に3年生にとっては最後の学園祭なので、最高の学園祭になって欲しいと思っていました。

Q-今年のテーマに込めた思いは？

一人一人が輝けるように、そして誰もが主人公となり、みんなで団結できる学園祭にしようという思いを込めてこのテーマを設定しました。

Q-学園祭が終わり、振り返ってみてどうですか？

準備期間が短く準備不足の点もありましたが、何より嬉しかったのは、自分たちが企画した学園祭で、生徒のみなさんが楽しんで盛り上がってくれたことです。

Q-後輩へアドバイスをお願いします。

行事を成功させるのにまず必要なのは、緩みすぎず、何より自分自身が楽しんで準備をすることです。時には人と意見がぶつかり合うこともあるでしょう。しかし、そこで逃げたりせずに立ち向かっていける強さがあれば、よりよい団結力を生み出せるでしょう。今年の経験を活かし、今年度以上の学園祭を作り上げてください。応援しています。



学園祭実行委員長 | 3年 加賀見 隆一

みんなで創り上げた菩嶺祭

私は本年度初めて学園祭実行委員となり、さらに委員長という大役を任せられました。しかし、最初はどの動いていいのかわからず、戸惑うことばかりでしたが、生徒会役員や先生方、そしてクラスの人々にも助けをもらい、実行委員長としての責務を果たすことができ、本当に感謝しています。生徒一人一人がそれぞれの思いを持ちながら、2日間楽しんで過ごせたと実感しており、私自身も学園祭実行委員長という立場で最後の学園祭に関われたことにより、全体を意識して過ごすことができました。そして、自分だけでなく全校生徒が一致団結して一つのことに取り組んでいた姿を見ることができ、菩嶺祭が成功裏に終わったことを実感しました。



自分でお弁当を作ろう！

～食の大切さや楽しさを子どもに伝えられる親になろう～

キャリア教育の推進として、講師に竹下和男先生をお招きし、基本的な生活習慣を見直し、「食べる」ことの大切さを学ぶことで、主体的に生きる力を身につけるための講演会を行いました。講演の中で竹下先生は「我が子に食事を作ってやれる親になって欲しい。我が子に料理の楽しさを伝えられる親になって欲しい」と訴えていました。生徒は「料理を作れないということは、将来自分の子どもに伝えられない」「弁当を作ってくれるのは母親の仕事で、当たり前のことだと思っていた。5歳の子どもの料理をしている姿を見て、できない私は後ろめたくなった。今夜から母の手伝いをしようと思う」と、親への感謝や自分のことは自分でやろうと前向きな感想を述べていました。講演会をきっかけに、「お弁当の日」を設定し、7月22日に実施しました。実施するにあたり、甲州市健康増進課の管理栄養士による「塩山式手ばかり」を用いたバランスの良い食生活について、また、映東保健所衛生課による食中毒対策についての講座を開催しました。また、家庭部による「簡単にできるおにぎらず」の講習会を行い、「お弁当の日」に備えました。「お弁当の日」当日、各々の弁当を見せ合い、生徒は「いつも自分で作っている」「親の大変さがわかった」「改めて親に感謝したい」と感想を述べ、少しだけ成長した姿が見られました。



講演会



お弁当の日

巣立ち教室 進路の設計と選択

～無限の可能性を開くために～



山梨学院大学就職キャリアセンターの土橋久忠先生を講師にお迎えし、3年生の総合的な学習の時間に、進路実現に向けての講演会を行いました。講演では、「失敗から学ぶことは多い。失敗こそ財産である」「大事なことは桜梅桃李。それぞれにいいところがあり、人と比べて一善一憂しないこと。比べるなら、昨日の自分と今日の自分」など、自分と向き合い可能性を開くために必要なことを学びました。聴講した生徒は、「人と比べる必要はなく、自分に自信が持てた」「自分で可能性をつぶすようなことはしたくない。可能性を広げたい」「結果を恐れずに、思い切ってやろうと思った」「自分も他人もわからない自分の良いところがあるとしたら、自分で気付くことができたら良いと思った」「自分の良さに自分で気付くためには、努力と継続が必要だと感じた」など、自分の可能性について考える有意義な時間となりました。

ミクロとマクロの世界を学ぶ

～県立科学館見学～



1年生の英数コースの生徒対象に、理数教育推進事業の一環として、山梨県立科学館で実験を交えた講義で楽しみながら科学を学びました。サイエンスショーでは大気圧を実験で、プラネタリウムでは宇宙の誕生と星座について学び、生分解性プラスチックでは指のレプリカを作りました。体験後、「コップ一杯の水で4Lの水を持ち上げた実験には驚いた。その原理をもっと知りたくなった」「宇宙のスケールの大きさに圧倒された」「水と二酸化炭素に分解されるプラスチックが開発されていると聞き、ものづくりは進んでいると思った」「高校生になって以前見たものと同じものを見て、そのことについての考えが深くなっていくことを実感したので、その学習を普段の生活にいかせるようにしたい」など、多くを学んだ一日となりました。